

どうして沖縄の人たちが
こんな目に合わなくちゃならなかったんだろう

(小山彩音さんのつぶやきから)

平和について考える

沖縄戦の際、集団自決で84人が生命を落とした読谷村「チビチリガマ」の前でガイドの知花昌さんから話を聞く子どもたちです。

ガマと呼ばれる自然にできた洞くつは、村内に数多く点在しているそうです。上陸したアメリカ軍から逃れ大勢の読谷村民が、それらのガマに身を潜めました。千人もの人が生き延びた「シムクガマ」では、以前ハワイで仕事をしていた村民が、アメリカ兵と交渉をし、皆が無事にガマから出るきっかけを作ったと言います。

「『集団自決』は、『敵の手にかかる位なら自決せよ』という戦争中の思想や教育が引き起こしたものでした」と知花さんは語ります。「生きようとして逃げ込んだガマで、生命を絶つほかなかった。守り育てるはずのお母さんが、自分が産んだ赤ちゃんの生命を、その手で奪わなければならなかったのです」。

静かに聞き入る子どもたちを蝉しぐれが包んでいました。知花さんの言葉が響きます。

特集 ● 沖縄までの旅

特集 ● 沖縄までの旅

沖縄までの旅

小学6年生50人が沖縄の自然・文化・歴史を訪ねました

小学6年生が自然や平和、そして生命の大切さを学ぶ「沖縄までの旅」。村外の小学校に転校した16人を含む50人の子どもたちが、12人のスタッフと共に、7月20日から23日まで、3泊4日をかけて沖縄を旅しました。

1日目には首里城の見学やサンゴ染め体験を通して沖縄の歴史・文化に触れ、2日目には平和祈念公園や読谷村で現地の人話を聞いて平和について学び、また3日目にはビーチや水族館で豊かな自然を体感しました。しかもそれだけではありません。50人の仲間と行く旅の中で子どもたちの言動は変化し、集団としても大きく成長していきました。



ガマを訪れた後には、読谷村の子どもたちと交流。あたたかな歓迎を受けました